

慢性腎臓病の治療は生活習慣の改善から

「人工透析予備軍」と言っても過言ではない慢性腎臓病(CKD)の患者数は、現在、1,330万人とされています。糖尿病患者が1,000万人であることを踏まえると、慢性腎臓病は「新たな国民病」といえます。そこでCKDの主たる原因となる糖尿病、高血圧、腎炎の診断治療を専門に行うクリニックを開設しました。

CKDの進行を予防するためには生活習慣の改善が第一です。運動、過食を避ける、禁煙などですが、最も重要なことは、塩分を制限することにあります。塩分を制限するには食生活の見直しが必要ですが、多くの患者さんは「生活習慣の改善は難しい」と考えます。ところが適切な食事指導により塩分摂取量が変わることを、24時間の蓄尿検査で得られるデータを示して「見える化」すると、患者さんは食生活の改善に積極的に取り組みようになります。腎臓は、機能低下が始まり透析治療が必要な状況になっても痛みを感じません。同時に、改善しても何も感じないことが意欲低下につながるのであるのではないのでしょうか。食習慣を変えたと身体は変わることがこの蓄尿検査で実感できると、禁煙や運動習慣を取り入れることなどにも意欲的になるようです。私は、生活習慣の改善に加えて、血圧、血糖、脂質、ミネラル、貧血に関する治療を行い透析を回避する治療法を「CKD保存療法」として、開院以来、取り組んでいます。



中山寺いまいクリニック

院長 今井 圓裕氏
えん ゆう

慢性腎臓病
(CKD)
知っていますか？

また、毎年、3月第2木曜日は世界6大陸100カ国以上の国が同時に啓発キャンペーンに取り組み「世界腎臓デー」が開催されます。このキャンペーンを機に、慢性腎臓病予防に関心を持っていたいただき、「年に1回の検査」を習慣にしてください。

企画・制作／
神戸新聞社営業局

広告

毎日血圧
ときどき
時々尿検査

高血圧なんて
自覚症状がないから
平気と思いませんか？

からだ・くらし・すこやかに



大日本住友製薬

<http://www.ds-pharma.co.jp>